



令和 6 年度

県営都市公園 外部評価結果報告書

令和 7 年 3 月

静岡県都市公園懇話会 外部評価委員会

外部評価の対象とする県営都市公園

区 分	面積 (ha)	供用開始日	指定管理者
静岡県草薙総合運動場	26.4	S38.4.16	東京ドーム・東急・静鉄共同事業体
遠州灘海浜公園	20.3	S63.10.9	天龍造園建設グループ
愛鷹広域公園	19.4	H 1.7.16	あしたかスポーツ&ネイチャーパートナーズ
静岡県富士山こどもの国	94.5	H11.4.26	小泉アフリカ・ライオン・サファリ(株)
小笠山総合運動公園	269.7	H13.5.10	静岡県サッカー協会グループ
吉 田 公 園	14.3	H13.8. 1	特定非営利活動法人しずかちゃん
浜名湖ガーデンパーク	34.6	H17.6. 5	浜名湖えんてつグループ

目 次

外部評価の実施

令和6年度 実施内容

令和6年度 7公園9段階評価ポイント

- 1 静岡県草薙総合運動場
- 2 遠州灘海浜公園
- 3 愛鷹広域公園
- 4 静岡県富士山こどもの国
- 5 小笠山総合運動公園
- 6 吉田公園
- 7 浜名湖ガーデンパーク

外部評価の実施

静岡県では、都市公園の指定管理者制度への移行に当たり、指定管理者の業務状況を確認するだけでなく、業務自体が公園の設置目的の達成に貢献しているかを客観的に評価するため、平成17年度から外部評価制度を導入している。

評価は、業務の実施内容の評価する管理運営評価（一次評価）と、公園の公益性や設置目的との適合性の評価（二次評価）の二段階で行った。

一次評価では公園の目的、業務体系を表したパークマネジメントカルテに基づき、事業者の自己評価、来園者アンケート、県による事業診断を行った。

二次評価では、一次評価結果データや現地視察の結果に基づき、外部有識者（静岡県都市公園懇話会委員）が意見交換し、設置目的の内容を機能別に分類した項目ごとに「Aプラス」から「Cマイナス」までの9段階評価と文章により総合判定した。今後、指摘された具体的な改善点などに基づき、指定管理者の管理運営の内容の向上に活用していく。

令和6年度 実施内容

区分	実施内容	説 明	実施時期
I	パークマネジメントカルテ	設置目的から個別業務内容までを構造的に示した作戦体系図を作成し、業務ごとに年間目標値を定めた。	令和6年6月
II	外部評価アンケート	公園の基礎的な管理項目と来園目的に対する満足度を5段階で調査した。県営7公園の利用者を公園現地で無作為抽出し、対面式・回収式で調査した。	春・秋 ※浜名湖ガーデンパークについては浜名湖花博2024開催に伴い夏・秋
III	一次評価	パークマネジメントカルテの実績、外部評価アンケート、職員モニタリングを基に、評価基準に従い客観的に数値付けした。	10月～11月
IV	公園現地視察・指定管理者へのヒアリング	外部評価委員による現地視察及び指定管理者へのヒアリングを実施した。	11月
V	二次評価	I～IIIのデータに、県営7公園の公益性や設置目的との適合性に関する外部評価委員の知見を加えるとともに、委員による公園の視察結果を基に評価を総括した。	令和6年12月～令和7年3月

（参考） 9段階評価ポイントの意味

記号	意味	その他
A	十分満足できる	心象としてABCに対し上回るか下回るかにより、必要に応じ、＋、－の付加記号を付ける。
B	概ね満足できる	
C	努力を要する	

令和6年度 県営都市公園の9段階評価ポイント

評価ポイント

静岡県草薙総合運動場

R 5

R 6

評価の総括		A-	A-
機能別評価	A 多様なスポーツニーズに対応する施設としての体制強化	A	A
	B 地域や利用者の方々が利用しやすい場の提供	A	A+
	C 地域との連携・協働	A	A
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A	A
	E 公園の魅力の広報	A-	A-
	F 収益向上への取組	A-	B+
	G 安全・安心で快適な施設の提供	B+	A

遠州灘海浜公園

R 5

R 6

評価の総括		A	A
機能別評価	A スポーツに親しむ場の提供	A-	A
	B 自然に学ぶ場の提供	A	A+
	C 地域利用の場の提供	A	A
	D 地域との連携・協働	A-	A-
	E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A	A-
	F 公園の魅力の広報	A-	A-
	G 収益向上への取組	A-	B+
	H 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

愛鷹広域公園

R 5

R 6

評価の総括		A	A-
機能別評価	A 県東部地域のスポーツ振興のための大会・イベントの実施	A+	A+
	B 自然と親しむ場の提供	A	B+
	C 地域との連携・協働	A-	B
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A	A-
	E 公園の魅力の広報	A	A
	F 収益向上への取組	A	A
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

静岡県富士山こどもの国

R 5

R 6

評価の総括		A	A
機能別評価	A 自然を活かした多様な遊び、夢や冒険心を育む遊び場の提供	A	A
	B 生命の尊さや自然の豊かさを学ぶ場の提供	A	A
	C 地域や利用者の方々が交流できる場の提供	A+	A+
	D 地域との連携・協働	A+	A+
	E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A-
	F 公園の魅力の広報	A-	A
	G 収益向上への取組	A-	A-
	H 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

小笠山総合運動公園

R 5

R 6

評価の総括		A	A
機能別評価	A 県の頂点となる大会の開催（国際大会、全国大会、県大会等）	A+	A+
	B 地域利用・多目的利用の推進	A	A
	C 地域・企業との連携・協働	A	A
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A+	A
	E 公園の魅力の広報	A+	A
	F 収益向上への取組	A-	A-
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A+	A

吉田公園

R 5

R 6

評価の総括		A-	A
機能別評価	A 花や緑に親しむ機会の提供	A	A
	B 地域住民の利用促進	A	A
	C 地域との連携・協働	A-	A-
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	B	B+
	E 公園の魅力の広報	A-	A-
	F 収益向上への取組	B	A
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

浜名湖ガーデンパーク

R 5

R 6

評価の総括		A-	A
機能別評価	A 憩いの場として、多彩な花・緑との出会いの場を提供	A-	A-
	B 多様な体験の場の提供	A-	A
	C 地域との連携・協働	A+	A+
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A-
	E 公園の魅力の広報	A+	A
	F 収益向上への取組	A-	A-
	G 安全・全安心で快適な施設の提供	A	A

1 静岡県草薙総合運動場

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

近年、中心市街地からアクセスの良い野球場は商業施設などに再開発されるなか、静岡県草薙総合運動場は都市公園という特性からも、県民のスポーツ施設としての維持管理がますます重要となってくる。

こうした観点からすれば、第47回全国選抜軟式野球大会や令和6年度全国クラブ対抗選手権テニス大会などの全国大会の開催が中間目標13回に対して中間実績20回、後述するプロ野球公式戦が8回と、一定の地位を維持していると言える。

一方で令和6年度の利用者数は中間目標492,000人に対して、中間実績457,946人・達成率93.1%と、前年度同時期の達成率86%と比較すれば向上しているものの、昨年度比は95%と減少している。また、教室参加に関しても中間目標延べ42,000人に対して、中間実績延べ37,988人と達成率90%と目標未達成であり、前年比も92%と減少している。したがって一層の利用者数が必要となる。利用者数に関しては既存利用者の維持と新規利用者の獲得の2つの面がある。

新規利用の獲得に関しては、昨年度の改善事項も反映した「みにとしょ」の開設やドッグランの開設、スケートボードの利用促進といった取り組みがなされている。今後も更なる取り組みに期待したい。

一方、既存利用者の維持には、満足度の検討が必要である。今年度のアンケートを見てみるとトレーニングルームにおける満足度が4.3から4.4へ改善し、なかでも球技場が4.6から5.0へ向上している。見るスポーツだけでなく楽しむスポーツにおいては、一定の評価がなされている。今後も人的サービスの維持・向上に期待したい。

● 改善事項

先のアンケートでは野球場における満足度が4.4から4.0へと悪化していることが目につく。屋外の清掃が4.4から4.3へ悪化している。これは、ハード面での追加コストは必要としないため、早急に改善をお願いしたい。

既存のサービスなどに関しては、シンボルともいえる野球場、特に関連展示について、さらなるアピールを期待したい。とりわけ沢村栄治に関しては銅像もあることから、指定管理者のコネクションを活用し、例えば、沢村賞受賞者を絡めたイベントなどをお願いしたい。

また、自主事業ではイベントごとの収支においてかなりバラツキがある。これは成果指標がイベント本数や動員数などとされており、「新規性」「実施数」にも重きが置かれている印象がある。もっとも収支上は赤字とはいえ、地元との連携・協働で欠かすことができないイベントもあるため、すぐに休止すべきという議論ではなく、収支以外の成果（地域貢献）などは認めつつも、イベントの全体実施数や内容をもう少し精査していく必要がある。

そのためにも、社会ニーズの情報収集の強化が重要である。例えば、後述する「健康経営」への期待の高まりや中学校の部活動の地域移行の前倒しなど、関連すると思われるニーズへの取り組みをお願いしたい。また、ニーズの収益化という点からは、現在無料となっているドッグランの維持管理や設備の充実のためにも、今後ドッグランの一部を有料化することを視野に入れて欲しい。

最後に、一部で原因不明の地盤沈下が点在している。安全性の確保の点からも、県との十分な協働のもと、改善に努めて欲しい。

● 機能別の評価

A 多様なスポーツニーズに対応する施設としての体制強化

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

日本野球機構（NPB）が各チームにおける本拠地での主催ゲームを重視するなか、地方球場はかつてのような形での試合開催が困難になりつつある。そうしたなか、2024年度よりハヤテ223株式会社が運営するくふうハヤテベンチャーズ静岡が、静岡を本拠地としてウエスタン・リーグに参入したことは好材料であり、積極的な連携が必要である。実際、5～6月にかけては計8試合が開催されていることは高く評価できる。さらにサッカーではSBSカップ国際ユースサッカーなども実施されている。

こうしたスポーツに触れる機会に加えて、スポーツを楽しむ体験の提供も重視されている。若年層の野球経験の低下にも配慮したTボール（投手がいない野球やソフトボール）、ラグビー初心者体験教室を9月に実施し、各種スポーツの競技人口への底上げも図られている。このように、スポーツを始めるきっかけをテーマとしたイベントが上半期で20回実施されている。とりわけ10月に実施されたオリンピックによる水泳教室は、こうした取り組みにおいて競技人口の拡大へ大きな刺激になっていると言える。

一方、「多様な」というスポーツの種類の幅についても、ノルディックウォーキングイベントの実施やパラ競技の強化などが行われている。

以上のソフト面に加えて、ハード面では、体育館の体操競技大会用器具について、コストをかけて更新が行われている。今後もソフト・ハード両面でのスポーツに関する体験の提供を向上させてもらいたい。

B 地域や利用者の方々が利用しやすい場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

現在、公共施設をめぐる議論のなかで、多様な機能といった複合化に期待が寄せられている。事実、同一区画内で体育館やアリーナなどスポーツ施設に加えて、図書館やマルシェといった機能が加わり、地域住民の日常生活での交流の場となっている事例も存在する。

こうした傾向の中、「みにとしょ」の開設、ドッグランの開設、使用可能区画の周知によるスケートボードの利用促進といった取り組みがなされている。とりわけ、2024年4月に「みにとしょ」がオープンしたことは高く評価できる。「みにとしょ」は、焼津市「みんなの図書館さんかく」を運営するNPOの指導を仰いだシェア型図書館である。通常、シェア型図書館とは、施設内の本棚を小さく区切り、1区画ごとに選書を担うオーナーが存在する。したがって選書のテーマはオーナーごとにバラバラであるものの、その個性が人気を博している。一方、「みにとしょ」は立地の特性上、テーマはスポーツ関連に限定されている。また、各本棚にオーナーがいるのではなく、市民による寄付で書籍が収集されている（寄贈309冊、貸出1347冊）。このことによって、住民全体がシェア型図書館へ関わることができ、住民参加や交流をより促進する工夫がなされている。

近年、書籍に関しては書店の減少や読書時間の減少が問題視されている。「みにとしょ」は普段、書籍と接点の無い人たちにも読書の機会を提供し、さらにそのテーマからスポーツへの関心を高めており、多様な機能という複合化における相乗効果が今後もさらに期待できる。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

静岡県草薙総合運動場が主催するイベントにおいては、どれだけ地域住民の理解を得ることができるかが、今後の拡充に向けて鍵となってくる。立地上、住宅街にあるため騒音などが問題になりやすく、この点は非常に重要である。令和6年度では、こうした点を踏まえて10月5日～6日開催の「草薙運動場まつり」では試験的にローカルアイドルのイベントも実施されている。今後は、まずこのトライアルの分析を待ちたい。

また地域との連携・協働では、静岡県草薙総合運動場が主催するイベントもさることながら、地域が主催するイベントに対して、どれだけ協働できるかが重要である。そうした点から、恒例とはいえ8月2日開催の「清水港かつぼれ」に41名が参加したことは評価できる。

産学連携という点では大学生による指導も37回実施されており、今後も継続をお願いしたい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者のニーズについては、既存利用者への満足度向上と新規利用者の獲得に向けた新たな取り組みが求められる。まず、既存利用者について、高齢者ではS型デイサービスと連携した活動が109名になるなど拡充されている。内閣府でも「地域の健康度の上昇は、その地域の経済活動を活発にし、医療費を抑制する可能性があるなど、地域経済に好影響をもたらす」（地域の経済2019）としており、地域全体へ様々な効果が期待できる。

また、若年層に対しては各種自主教室を通じて実施されており、とりわけ世相を反映してダンスが人気である。さらに、東京オリンピックを契機に人気を博しているスケートボードに関しても、安全のためにきっちりと区画を設置することで適切な利用促進につなげている。

一方で若年層においては少子化や帰宅時間が遅くなる傾向にあるため、今後の大幅な利用者増は厳しい状況と考えられる。そこでS型デイサービスとの連携同様に「地域の健康度」という視点から、企業との連携を模索されたい。労働力不足から従業員への様々な施策に焦点が当たるなか、従業員の健康状態を高めることで業績向上につなげる「健康経営」が注目されている。現在までに培った多様なスポーツニーズへの対応との連携を期待したい。

E 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新規利用者の獲得という点において広報活動は重要であり、とりわけ一定の会員や支持者を有する組織とのコラボレーションが有効な手段とされる。静岡県草薙総合運動場では指定管理者のなかに、静鉄プロパティマネジメントが参画しているため、そのノウハウなどを活用できる機会がある。

実際、8月20日～24日開催の「くさなぎグルメガーデン」でのキッチンカーの誘致では、静鉄プロパティマネジメントの持つノウハウが活用されている。こうしたなか、さらに期待されるのは静鉄グループ会員からの送客である。現在、静岡鉄道や近隣ストアにおいて「草薙通信」が9回配架され、ルルカカード（静鉄グループ会員カード）へのポイント付与も実施されている。

ルルカカードには公式 LINE やアプリも存在するため、今後はこうしたデジタルを通じた送客を期待したい。

F 収益向上への取組

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

収支においては、光熱費などの高騰の影響によって中間報告書の段階では赤字であるものの、金額ベースでは約 950 万円であり、単年度黒字化の可能性がある状況である。こうした状況下ではコストカットには限界があるため、いかにして自主事業における収益を向上させるかが重要となる。そうした観点からすれば、中間報告書では約 1800 万円の利益があり、一見すると全体の収支状況の改善に寄与しているように思われる。しかしながら、こうした利益のほぼ半分がプール教室によるもので、しかも参加者は前年比約 8 %減となっている。早急にプール教室の収入源を補填できる事業の創出、既存の赤字事業の改善が求められる。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

近年、総務省による指針などから公共施設マネジメントにおいては、「適切な維持管理・修繕の実施」といったある種のソフト面と「長期的視点に立った老朽化対策」といったハード面の充足が求められている。

維持管理といった観点からは、委託先の本社機関と連携した安全監査において、今年度より新たにレジオネラ菌対策が盛り込まれるなど、一定の改善が見られる。さらに研修も定期的実施されている。また ICT の進展に伴い、ドローンを活用した照明灯やルーフドレンの点検も実施されている。

老朽化対策では県の協力のもと、陸上公式認定対応工事やスタンドの防水修繕工事、園内の静岡市道を渡る歩道橋の修繕が実施されている。今後もソフト・ハード両面からの施設管理に期待したい。

2 遠州灘海浜公園

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

「県西部地域における県民のスポーツ・レクリエーション需要に対応し、また野鳥観察等自然環境を生かした環境学習の場としての公園運営を目指す」という当公園の設置目的に合致して、スポーツと自然にバランスよく触れることができる場所として着実な管理運営ができているというのが、視察を通じた印象である。指定管理者も、指定管理開始から約20年を経て、その経験や専門性を生かした樹木などの整備や芝生の管理をおこない、四季折々に自然あふれる環境を充実化している点を高く評価したい。

今年度の公園利用者は中間目標数に届かず（58,600人→48,725人）、昨年実績（59,406人）より1万人強の減少となっている。当公園では日常的な利用者の把握が難しい点や下半期に大規模なイベントが多く、利用者数も例年下半期に大幅に増える傾向があり、なお年間実績を注視したい。新型コロナウイルスも回復基調にあるなか、利用者減の大きな要因としては、夏の猛暑が長引いた点、悪天候、雨天によって中止が多かった点が考えられる。屋外イベントがメインであり、やむを得ない部分もあるが、今後も気候変動による影響はますます激甚化することが予想されるので、アンケートの要望にもあるように木陰や水遊び場などの暑さ対策や、雨天時対策を講じる必要があるだろう。加えて、具体的に前年度中間実績と比較すると、サッカー、ラグビー大会、各種スポーツ教室、園地の利用などの参加人数減少が見られる。目標値の変更もあり、単純に比較はできないが、さらに具体的なニーズや利用動向の分析や今後の対応も検討すべきだろう。

また、アンケートの施設別、管理項目別満足度を見てみると、建物内清掃のポイントについて、球技場は3.1、憩いの広場は3.8、遊具広場は3.9と、やや低くなっていることが気にかかる点である。また個別のコメントでは駐車場に関する課題が目立つ結果となっている。これが減少要因の一つと考えられるのか、即断はできないが、この辺りもより快適な利用者サービスに向けて改善の余地があると考ええる。また施設の老朽化ということも満足度の低下につながる原因の一つになるとも考えられる。軽微な修繕は別として、これは指定管理の領域を超えた課題であるので、県と協議しながら、長期的な更新計画を検討していく必要があるだろう。

加えて、利用者増を目指す広報のためにも、懸案である公園名称の統一を図ることによって、公園のアイデンティティを確立して、より有効に公園全体をアピールしていく必要があると考える。

● 改善事項

公園利用者数については最終的に年間実績を見ていく必要があるが、そのさらなる増加に向けては、長期的な施設の改善、中期的な利用者動向の分析などが求められるが、当面、下記の改善を検討いただきたい。

○「石人の星公園」へ名称、コンセプトを統一化

公園のアイデンティティの確立し、ストーリー性による統一感などを図り、石人くんキャラクター、石人の星のストーリーに光を当てて強調して、HPやSNSでの発信や新たなパンフレットの更新、公園内の案内サインなどに積極的に活用してより効果的に公園の魅力を伝えていくことを目指してほしい。

○暑さ対策

屋外での利用、スポーツ大会や教室の開催でも今後、温暖化による酷暑対策は不可欠なので、

木陰、休憩所、水遊び場、自動販売機、場合によっては簡易なミスト装置などを検討する必要がある。

○施設内の清掃の強化と駐車場の案内サインなどの利用者サービス

アンケートのポイントがやや低い施設内の清掃や、個別のコメントにも多かった駐車場の案内方法や混雑について改良に努めて、利用者サービスの更なる向上を目指してほしい。

○収益性の追求

今後有料イベントの企画、誘致を進めて、利用者満足度とともに収益性を高めていくことも検討いただきたい。また暑さ対策を兼ねた休憩所（木陰）＋自動販売機の増設も検討することによって収益にもつながると考える。

● 機能別の評価

A スポーツに親しむ場の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

スポーツイベント、サッカー、ラグビー大会や各種スポーツのプログラムなどは回数、参加者数の中間目標値通りにほぼ実施されている。新型コロナウイルスの自粛状況からの回復を受けて、特に少年サッカー、女子サッカー、グラウンドゴルフ、ゲートボール大会など老若男女を対象とするスポーツ大会への積極的な参加状況があり、中間目標の 2,500 人を大幅に上回る 4,220 人の参加があり、これも指定管理者の積極的な誘致の表れであり、その実績を評価したい。一方で、各種スポーツ教室や体験教室への参加者数は、目標値を下回っており、雨天による中止（教室で 5 回）の影響が大きいと考えるが、なお地域のニーズの把握や教室開催の利用環境向上などを検討して、参加者増を目指してほしい。

競技場は浜松市内で唯一の天然芝となっており、サッカー、ラグビーをメインとして、小中高、大学、シニアなど幅広い利用があり、週末の稼働率はほぼ 100 パーセントに達して好評を得ている。ターフのメンテナンスも週 3 回の日常管理に加えて、夏、秋のクローズ期間を持つことによって良好に保たれている。また、ベトナムサッカーチームの合宿受け入れも 3 年目を迎えるのに加えて、今年は国際デフリンピック東京の際にブラジルサッカーチームの事前合宿の受け入れも予定されているということで、浜松市と連携した国際的な誘致が行われている。

またスポーツ教室では、ノルディックウォーキングやクラブ体験など幅広い年齢層を対象とした生涯スポーツや、障害者を対象としたパラスポーツも積極的に取り組んでいる。一方で、アンケート調査による大会や教室利用の満足度は昨年の 3.8 から 4.0 へと高まっているが、まだ類似の施設の結果より若干低めになっている。そこで今後は注目度の高い、収益性のあるスポーツイベントなどを少し組み込んでみるとか、地域のニーズやリピーター属性などを分析した教室の開催など、新たな試みを検討してスポーツに親しむ多様な場を提供するという目的をさらに推進していくことを期待したい。

B 自然に学ぶ場の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

自然観察会や環境学習などのプログラムの提供など、自然豊かな公園という強みを生かした取り組みが目標回数通り実施されており、高く評価したい。それぞれの参加者も目標値を 3 割程度上回っており、利用者満足度も 4.1 と、昨年度の 3.7 から大きな改善が見られており、人気も認知度も高まっていると考える。

内容的には野鳥観察会や夜間観察会、ウミガメの観察放流会など公園の立地を十分に生かした取り組みが例年実施され、「こども自然楽校」では子供の年齢層に合わせて自然に触れ合う機会を提供している。中でも通年で開催されている E-na クラブは 30 名が参加して 10 回実施されており、観察や野菜の栽培などを通じて自然に親しむ貴重な機会となり、地域に着実に定着している。また公園のイメージ・キャラクターである石人の星とリンクした「星空観察会～石人の星公園で深宇宙を観よう～」というイベントも秋から冬にかけて実施され、公園のアイディンティをアピールする工夫がなされている。アンケート調査でも、施設利用の感想では自然生態観察園や観察広場の評価が相対的に高くなっており、利用ニーズが大きく好評を得ていることが窺える。

C 地域利用の場の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

快適な園地（芝生広場、遊具広場等）の提供では、利用回数は目標値 180 回に対して 167 回と下回ったが、雨天による中止が 24 回と多かった影響である。参加者数は目標値を上回っており、ピクニック、こどもの園外学習などの利用や、グラウンドゴルフやノルディックウォーキングなど、場所を有効に使った多様な年齢層を対象とする取り組みがなされている。一般利用者からのアンケートのコメントでも、芝生広場や大型遊具で、広くてゆっくり伸び伸び遊べたという感謝の言葉が多くあり、またサイクル広場も人気が高いことが窺えた。一方で、遊具や自転車、一輪車の整備や台数増を望む声も散見されたので、今後留意検討してほしい。

文化イベントの誘致開催も積極的に行われている。ほぼ目標回数値を達成しているが、雨天による中止も 4 回あり、参加者数も約 1.5 割減となったが、下半期にかけてフリーマーケット、クラフト体験や、クリスマス、お正月など季節毎の体験教室も充実しているので、参加人数も増えることが期待できる。また最も大きなイベントである「おはこ壺」はワークショップ、飲食を含め 230 件もの出店があり、ますます充実しており、地域の一大イベントとなっている。昨年の利用者年間実績では最終的に目標値を上回り、公園利用者数を大きく押し上げる機会となっている。また、ペット可の公園として「愛犬と参加する犬の育て方教室」や「愛犬との暮らし方教室」の開催は、ペットとの散歩者に責任ある行動を取ってもらうためにも工夫ある取り組みだと評価する。

D 地域との連携・協働

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

ボランティア活動の場の提供という点では、悪天候による中止が多く、目標回数には届かなかったものの、参加者数では約 3 割増の延べ 198 人が参加して、目標値を大きく上回る結果となった。ただしボランティアを組織化しているのではなく、ゲートボールやグラウンドゴルフの団体や地域企業、学校の清掃活動、障害者の就労体験の個別の受け入れにとどまっている。持続可能な管理サポート体制を検討していく上でも、地域との長期的な連携を構築する上でも、常設的なボランティア組織ができればさらに安定的なサポートが期待できるので、将来的な検討をお願いしたい。

地域の学校、企業、施設との連携については、天候に左右され中止が非常に多くなったが、その中でも目標値を達成し、参加者数も約 3.5 割を超える大幅な増加になった。

周辺の中高等学校、協働センター、天文台、企業、自治会など、多様な機関、組織と連携を展開しており、その取り組みを評価したい。ただ、「東日本大震災以来、以前は非常に多かった小学校の遠足による来園が戻っていない」、「コロナ後は支援学校の作業学習が途切れてい

る」という話を視察時に聞き、場所性という理由もあり難しい側面もあるだろうが、安心、安全の管理について教育委員会などとも協議して、各学校からの理解を深めてもらい、より幅広い学校連携と公園利用を推進することを期待したい。

E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

アンケートなどによるニーズの把握と反映に関して、目標値以上に積極的に取り組んでいる。アンケートの課題であったトイレの修繕や日常的な清掃、売店機能の充実などについて、向上を目指して実施している点は高く評価する。その結果、清掃、管理に関して総じてポイントが上がっており、また週末のイベント毎には、キッチンカーを10店舗ほど配置するなどの対応や、今年度からマルシェ3団体が新規参入しているということで、アンケートへのフィードバックや積極的な対応での管理者の努力を評価したい。

今年のアンケートでは、イベント時の駐車場の混雑や駐車場サインの不足に関するコメントが目立っているので、案内方法の改善、大型のイベント時の対策をお願いしたい。加えて、水遊びのエリアや木陰がほしいという指摘もあり、特に温暖化による猛暑への対応策も検討していく必要があるだろう。

また接客サービスとして、高齢者の利用増に伴い、車椅子を常備して、清掃点検に努めており、これも目標値を達成しており、着実に対応されている。今後は昨年度の外部評価にもあった、高齢者の快適なモビリティサポートサービスや、上記のような暑さ対策、休憩所などについて、他の県営公園と情報交換を図りながら、なるべく速やかな対応を行ってほしい。

F 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園の魅力発信に関してはイベントカレンダーの配布、新聞、テレビ、SNSでの情報提供など多様な手法でほぼ中間目標値以上に実施しており、管理者の積極的な情報発信の賜と評価したい。

ただし、広報のためにも懸案である名称の統一、公園のアイデンティティの確立、ストーリー性による統一感などを図り、より有効に公園全体をアピールしていく必要がある。そのためには、石人くんキャラクター、石人の星のストーリーに光を当てて強調して、HPやSNSでの発信や新たなパンフレットの更新、公園内の案内サインなどに積極的に活用して、より効果的に公園の魅力を伝えていくことに努めてほしい。

G 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

収益向上策の実施では、持ち込み企画の誘致が中間目標の2件を大きく上回り5件の実施となり、管理者の誘致努力の結果と評価する。一方で、売店、出店料、販売手数料の収益に関しては目標値を下回る結果となっている。また自主事業による利益の還元に関しても中間目標に届いておらず、今後は競技場での有料イベントなどを増やすことによる収益面での効果を期待したい。また猛暑対策のひとつとしても機能する、休憩所（木陰）＋自動販売機の増設

などを検討して、収益増につなげることも検討されたい。

H 安全・安心で快適な施設の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

安心安全な施設の提供においては、日常点検、定期点検、清掃チェック、塗装修繕など、中間目標値通りに着実に実施されており、その取り組みを評価する。実際に利用者満足度から見ても、特に屋外利用者から「きれいな公園！お手入れありがとう」というコメントが多く、これも指定管理者の日常的な維持管理の成果の表れである。

また、危機管理行動や施設維持マニュアルの整備、訓練講習会への参加も目標通り行われている。ユニバーサルデザインに基づく園路の整備、案内看板の整備なども計画通り実施されており、安心安全な施設づくりに努力されていることが理解できる。一方で、利用者アンケートからは「駐車場がわかりにくい、入りにくくて危険」というコメントが目立っているので、誘導サインの増設などの対応をお願いしたい。

また、「遊具の安全性が不安」という声も少々あるので、老朽化への備えとして常時点検整備して、使用マニュアルのサインを出すなどの注意喚起も必要だと考える。

また先の地域連携のところで触れた小学校の遠足が東日本大震災以来戻っていないという課題もあるので、今後安全な避難路の確保や定期的な訓練の実施について説明して理解を得る方策を教育委員会などと協議することも必要かと考える。

3 愛鷹広域公園

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されてから1年余が経過しており、利用実績より公園利用についてコロナ禍以前の日常に戻ったと判断できる。公園利用者数(中間実績)は、コロナ禍前の平成30年度189,965人、令和元年度190,216人であったのに対し、令和5年度183,926人、令和6年度185,097人と復調しており(参考:コロナ禍の中間年ともいえる令和3年度は111,885人)、昨年・今年とも目標人数(R5:150,000人、R6:160,000人)を上回っている。また、利用者アンケートにみる総合満足度は令和5年度4.40、令和6年度4.35と高い水準を維持している。これらは指定管理者の運営努力の賜である。

公園の機能別に見ると、スポーツ大会・イベントの開催に関しては、陸上、野球、サッカーの定番大会・試合の開催に加え新規大会の誘致、大人向け運動プログラムの増設などもあり、目標数を上回って実施されており、「県東部のスポーツの拠点」としての活動の厚みを増している。スポーツ大会・イベントの実施を支える利用者サービスや安全・安心・快適な施設提供に関する諸業務もおおむね目標通り取り組まれており、特に野球グラウンド整備や公園施設の修理・修繕にはクイックな対応がなされている。また、昨年度に指摘のあった猛暑対策や夜間の街灯などにも迅速な対応が図られている。各種メディアを活用した広報・情報発信への取り組みも評価できる。

一方、自然と親しむ場の提供に関しては、自然系イベント・教室などはおおむね目標通り実施されているものの、公園の設置趣旨の二本柱の一つ「自然に親しむ場」を鑑みると、いささか物足りなさは否めない。本公園は施設構成から運動公園の性格が色濃いと思うが、少し視野を広げ公園の特性・ロケーションを活かした自然に親しむ・学ぶプログラムの検討・展開を期待したいところである。

また、地域との連携・協働に関しては、ボランティア・コーディネーターを配置しての毎月のボランティア活動、地域行政・学校との連携活動(花壇づくり等)には取り組まれているものの、活発とは言い難い。県営都市公園として地域との連携・協働は大切であり、企業連携等も含めて新しいスタイルの連携・協働への取り組みは課題だろう。

● 改善事項

公園の運営状況を踏まえ、基本計画(令和6年4月策定)の戦略2(地域利用、地域連携の促進)に即した検討をお願いしたい。

①自然に親しむ・学ぶプログラムの拡充 : 公園の特性・ロケーションを活かした特色ある自然に親しむ・学ぶプログラムを検討・導入する。周辺環境の活用や専門機関・団体との連携も一法であろう。

②地域との連携・協働の新展開 : 現在の取り組みを踏まえつつ、市民参加や学校・団体・企業・行政との連携の新しいスタイルを検討・導入する。一例として愛好家ボランティアの組織化、スポーツ利用団体の協力、企業CSRとの連携などが考えられる。

③隣接公園との連携の推進 : 隣接する沼津市営愛鷹運動公園(森林散策エリア含む)と利用・運営・広報等での連携について検討する。特に自然に親しむ・学ぶの観点からのポテンシャルは見込まれる。

● 機能別の評価

A 県東部地域のスポーツ振興のための大会・イベントの実施

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

昨年度に引き続き、本年度も大規模なスポーツ大会・イベントの開催・誘致に積極的に取り組まれている。例年実施されてきた陸上、野球、サッカーなどの大会（高校野球（春、夏）、東部陸上選手権、サッカー東部女子大会など）に加え、昨年度には伊豆地区陸上競技大会、サッカー・ルヴァンカップなど、本年度にはNPB ファームリーグ、ENEOS 軟式野球全国大会、関東聾学校陸上などが新規誘致されるなど、活発な大会・イベントの開催・誘致は高く評価したい。NPB ファームリーグ（くふうハヤテベンチャーズ静岡の試合）、ルヴァンカップの誘致は施設利用料収入増にも繋がっている。多目的競技場ではJ3アスルクラロ沼津のホームグラウンドとして多くの試合も開催されている。ただ、競技場使用頻度と芝生品質維持との兼ね合いは気掛かりであり、良好な競技場環境確保のためには両者のバランスには留意も必要となる。

大人向け運動プログラムは、ヨガ、ピラティス、太極拳、ノルディック、ランニング、ララフィットネスなど充実しており、開催数（中間時点、（ ）内は目標数）も令和4年度85回（6回）、5年度118回（85回）、6年度181回（100回）と目標数を上回るとともに年々増加している。ノルディックウォーク講習についてはほぼ毎週開催されるなど好評を博している。現指定管理者に変わり4年目を迎えるが、現管理者の強みの分野であり、その間に積極的な取り組みを通じて地域の人々の潜在需要を掘り起こし、根づいてきたものと考えられる。また、子ども向け運動プログラム（ミズノキッズクラブ等）、障がい者プログラム、トップアスリートによる運動指導、アスリート栄養講座等も着実に実施されている。トップアスリートによる運動指導はユニークであり人気もある。引き続き東部地域の生涯スポーツ・健康増進の拠点として幅広い活動の展開を期待したい。

B 自然と親しむ場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園内の自然を活かしたオリエンテーリング、ホタル祭り、さくらまつり、桜並木・ホタル鑑賞ライト設置、ハンギングバスケット等自然系教室などはおおむね目標通りないし目標を上回って実施されており、利用者アンケートでも相応の評価が得られている（「自然観察やウォーキングの案内や機会の充実」の満足度4.2）。一方、利用者アンケートで施設別管理状況の満足度が自然に親しむ場でもある「せせらぎの径」3.0、「その他の園地・園路」3.6と低めであるのは気掛かりである（回答者数が少なく読み方には注意を要すが）。環境整備や情報案内、管理清掃などの面で検討・工夫が必要かもしれない。

ただ、本公園は設置目的で「県東部地域のスポーツの拠点」とともに「自然に親しむ場」の二本柱が位置づけられていることを鑑みると、いささか物足りなさを否めない（パークマネジメントカルテによると前述イベント・教室等で年間10回程度）。本公園は施設構成から運動公園の性格が色濃いと思うが、少し視野を広げ公園の特性・ロケーションを活かした自然に親しむ・学ぶプログラムの検討・展開を期待したいところである。

C 地域との連携・協働

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ **B** B⁻ C⁺ C C⁻

ボランティア・コーディネーターを配置して、ボランティアの募集・活動推進に取り組んでいる。本年度はほぼ毎月ボランティアによる苗植え、花壇づくりなどが実施されており、上半期回数は目標を上回っている（中間目標 3 回に対し中間実績 5 回）。ただ、現状は単発的な補助的作業が中心で参加人数も限られるなど、ボランティア活動は活発とは言い難く、募集・活動には何らかの工夫が必要と考えられる。地域機関との連携では、沼津市の花を増やす運動、沼津特別支援学校花壇づくり、沼津市内中学校職場体験が実施され、教育機関との連携は令和 5 年度 6 回（目標 4 回）、令和 6 年度中間で 3 回（目標 2 回）と目標は上回って実施されている。企業連携については実施が見られず（昨年度、本年度上期）、引き続き課題である。

県営都市公園として公園運営における地域との連携・協働は基本的な課題である。本公園では実績より「花」をテーマにした活動が中心に思われるが、例えばエントランス、園路を対象に「花いっぱい運動」のような展開を通じて、愛好家ボランティアの組織化、スポーツ利用団体の協力、企業 CSR との連携など考えられないだろうか。新しい市民参加のスタイルの構築、学校・団体・企業・自治体への積極的な働きかけは期待されるところである。

また、隣接する沼津市営愛鷹運動公園（森林散策エリア含む）とは繁忙期の駐車場の相互利用はあるようだが、両者一体とも思える名称・位置関係・施設内容とも考えられ、今後は利用・運営・広報等での連携の可能性の検討も期待したいところである。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

有料公園利用者数、無料公園利用者数とも中間実績は中間目標を上回っている（計 185,097 人）。指定管理者による積極的なスポーツ大会、イベントの実施の成果と考えられるだろう。利用者サービスに関しては、多目的競技場の無料開放ではおおむね中間目標を達せられているが、テニスコートの無料開放では昨年度に続き本年度中間段階でも目標を下回っている。また、陸上個人利用の備品の減免利用人数、卓球台の利用人数は、昨年度から一転して中間段階で目標を大きく下回っている。これら目標未達項目に関しては要因分析、利用促進策の検討が必要である。利用者アンケートでは競技場の陸上練習利用、トラック補修を求める声が散見されるのは気掛かりである。何らか速やかな対応を期待したいところである。

職員の接客関連研修は、中間段階で年間目標を上回る回数を実施されており、利用者サービス向上への指定管理者の熱意が窺える。そのような取り組みもあって、利用者アンケートでの「職員の対応」への満足度は 4.5 と相対的に高い評価に結びついていると考えられる。また、指定管理者による公園施設の修繕は随時実施されている。中間段階までに外注修理・修繕 22 件、ベンチの修理・塗装、看板補修、ツバメの巣の糞対策などスタッフによる小規模修繕も中間段階で目標を大きく上回っている（目標 30 回、実績 93 回）。施設老朽化が進むなか軽微な修繕などに迅速に対応されている証であり、施設の維持管理、利用者サービス向上の観点から高く評価できるところである。

利用者アンケートの意見や対応に関するフィードバックは、管理棟ロビーに掲示する方法で継続して実施されている。ロビーにはオリンピックアスリートのサイン入りユニホームや箱根駅伝関連品などの展示が設けられるなど集客要素配置の工夫も相まって、対利用者コミュニケーションの観点から評価したい。

E 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

スタッフによるブログの更新、ホームページへの自然やイベントの近況などの掲載回数は、昨年度を上回り目標回数以上が実施されており（ブログ更新はほぼ毎日）、ビジュアルにわかりやすく、しかもタイムリーに公園の状況が発信されている。公園の公式LINEアカウント登録者は年々増加してきており、本年度も中間時点で1,090人と目標を上回っており、公園からの情報の受け手の裾野が着々と広がっていると考えていいだろう。沼津市広報や新聞・情報誌へのイベント情報掲載もおおむね目標通り実施されている。公式Instagramの運用や地域情報誌『MYDO』の随時利用も始められている。ただ、利用者アンケートでは「ホームページやマスコミなど公園からの情報発信」への満足度4.0は必ずしも高いとは言いきれず、利用者の情報ニーズに即したよりきめ細かな対応も必要なのかもしれない（令和6年度の回答者の過半数が40歳以上）。

F 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

令和6年度上半期売上（9月末時点）は80,724,124円と前年比約102%となっている。本年度に始まったNPBファームリーグ（くふうハヤテベンチャーズ静岡の試合）開催が売上増に寄与している。令和5年度上期（9月末時点）も前年比約106%を達成しており、野球、サッカー等大会・試合の継続的誘致活動が売上増に結びついているものと考えられ、指定管理者の営業・運営努力を評価したい。ただ、スポーツ広場投光器利用（薄暮時）は少年サッカーチーム使用等で好評を得ているが、中間段階での利用実績は目標日数を下回っており（目標80日に対し実績50日）、需要分析、目標設定に課題を残している。

自主事業収入は自販機収入、教室収入が中心であるが、キャッシュレス決済機能付き自販機の導入、大人向けスポーツ教室の増設などが収入増に寄与していると考えられる（R6上半期、対前年比約104%）。また、野球・サッカー等大会・試合やイベントの開催時にはキッチンカー、仮設売店の出店があり、来園者へのサービス向上に加え収益面での寄与も察せられるところである。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

野球大会等利用増もあり、野球場利用後のグラウンド整備、野球場外野芝生の刈込の回数は中間段階で目標を大きく上回って実施されており（整備：目標75回、実績111回、刈込：目標30回、実績65回）、多目的競技場サッカー場整備についてもJリーグコミッショナー点数を指標に適切な整備されている。また、公園全体にわたり消防設備、環境衛生設備等の点検・保守、日常的なパトロールを通じたベンチの修繕、看板修理、特別清掃など、さらには点字ブロック修繕、自動車道白ライン整備などにも適切な対応が図られ、指定管理者においては安全・安心・快適な公園施設の提供に向けて適切に取り組まれていると考えてよいだろう。

それら公園施設の維持管理の活動に加え、顧客満足度向上教育研修は様々に実施されてお

り（中間目標3回、中間実績5回）、その成果は利用者アンケートで「職員の対応」への高めの満足度に結びついていると考えてよいだろう。ただ、利用者アンケートでは自然に親しむエリアの清掃への満足度は高いとは言えず（3.0～3.6）、トイレについては総じてやや低めであり不備を指摘する声も寄せられた。トイレについてはアンケート後に修理・修繕が実施され速やかな解決が図られていると思われるが、公園のイメージを左右する施設でもあり日常的な管理・清掃には十分な配慮を期待したい。

昨年度の改善課題であげられた「温暖化による猛暑への対応」「夜間の街灯」に対しては、本年度には県、大会主催者との連携も含めエアコン修繕、スポットクーラー設置、テント設置、駐車場までの足元灯の設置など、公園環境改善に向けて迅速に対応されている。スタッフによる日常的な修繕も含め、これら小さな親切の積み重ねは利用者サービス、公園イメージの面で重要であり、日常活動として続けてほしい。

4 静岡県富士山こどもの国

● 評価の総括

[9 段階評価]

A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルスが感染法上 5 類に移行した 2023 年 5 月以降、利用者数は徐々に伸びを見せていたが、この間の猛暑や大雨・台風、加えて今年はお盆期の南海トラフ地震臨時情報の発表を受け、利用者数は伸びなやんでいる。令和 5 年度の利用者数は目標値 220,000 人（中間目標値 146,200 人）に対し 199,080（同 125,020）人、令和 6 年度上半期の利用者数は目標値 141,000 人に対し 135,405 人と、目標値には届いていない。

大自然を活かした公園である以上、気候変動による影響は避けられない。炎天や雷雨等への安全対策は必須であるが、野外事業の実施は困難が予想される。今後は、屋内スペース（含；屋根のある場所）の有効活用や天候に左右されないプログラムの更なる工夫が求められる。

四季折々の行事にちなむ事業・イベント、日常生活では体験できない農作業やものづくり、動物とのふれあい、自然観察などの体験の実施により、こどもはもとより幅広い年代に、＜五感＞で自然を満喫する時間を過ごしていただけたのではないかと考える。

事業の展開にあたっては静岡県の施策（観光振興、スポーツ振興、生涯学習振興、伝統・生活文化の継承など）との連携も意識し、多くの地域団体・機関やボランティアとのネットワークを基盤に、多様な事業やイベントの企画・運営に努められたことを評価する。

平日の利用者層の獲得や、園内・園外の移動手段の課題への対応、広報の充実にも取り組まれた。紙媒体の工夫を始め、HP や LINE 等での積極的な情報発信は、着実に成果を上げていると推測されるが、今後、それらの媒体の効果の検証（効果測定）が必要と考える。

利用者アンケートも、満足度が 4.5 と目標を達成した。特にパオ・オートキャンプや、職員の対応と樹木の管理の評価が高かった。日常の業務へのたゆみない取り組みの成果と推察する。

車で来場する子育て世代のリピーターとともに、初めての利用者も 3 割と多い。シニアの利用者が増加している傾向もある。今後の利用者増に向けては、初めての利用者をリピーターにする仕掛けと、これまでの取り組みの成果を検証しつつ、利用者の状況と気持ちに寄り添った事業展開とサービスの向上を期待する。

● 改善事項

富士山こどもの国の公園は、富士山麓の雄大な自然の中で、「遊ぶ」「学び」「育む」「交流」できる場として開設され、現在に至っている。これまでの取り組みを検証しつつ、「雄大な自然と公園の特性を生かした事業」の更なる魅力アップを図り、来園（者増）につなげていくための方策（サービス向上策）を検討されたい。

① 初めて来園したファミリー層にリピーターになってもらえる仕組み（方策）

② 低年齢の子が（複数）いる親も一緒に楽しめる支援サービスの充実

③ 地元のシニア（団体・個人）が定期的に通える場と機会の創出

機能別評価における改善事項については、各項を参照願いたい。

車で来場手段がない層についての交通手段や、宿泊施設を活かした事業展開についても、専門性の高い団体との協働等で検討を続けられたい。

● 機能別の評価

A 自然を活かした多様な遊び、夢や冒険心を育む遊び場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

ニジマスつりや水上ゴザ渡りなど水辺事業、雪の丘での雪遊び、ススキの迷路など季節ごとの遊びのプログラムが充実している。季節の行事にちなむイベントや、毎月の家庭の日の「こどものくにマルシェ」も季節をテーマに目標回数以上に実施し、多くの参加者があった。

プレイリーダー等の育成も積極的に行い、ディスクゴルフ講習会やアルティメット教室などを定期開催しており、MTBのレンタル台数も増やした。また、幅広い世代が楽しめるような、教室やイベント・大会を実施した。宿泊利用者向けの、ホテルや星空の鑑賞会も実施し、好評だった。新たにサウナイベントも行った。

インバウンド向けの取り組みについては、実行可能性について検討を要するのではないかと。

B 生命の尊さや自然の豊かさを学ぶ場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

里山体験教室は、7コース（畑、サバイバル、いきもの、ものづくり、防災、竹細工、トンカチ）を設定し実施した。サツマイモの苗さし（近隣の保育園・幼稚園児対象）、ホテルの放流、桜・ホテル・星空・昆虫などの観察会など、多様な学びの場を提供し、目標値を超える参加があった。

また、動物広場では、動物とのふれあい体験を安全安心に行えるよう衛生・健康管理を徹底し、体験乗馬用の馬の増（1頭）も行い、指導者技術の向上に努め、猛暑で落ち込んだ体験乗馬の実績回復を図っている。引馬体験は目標数値を超えている。

一方、園内の動植物保護や貴重種の紹介、環境学習サポート展示については、インストラクターの調整や雨天のための中止等で実績が落ち込んでいる。

利用者視点からのプログラムの見直しにも取り組まれた。引き続き、魅力あるプログラムの提供に向け、スクラップ&ビルドに取り組まれない。

C 地域や利用者の方々が交流できる場の提供

〔9段階評価〕 **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

GWイベントにおける、地元高校（富士市立高校）による駄菓子や雑貨の販売（吉商本舗）や他3高等学校による吹奏楽やチアダンスなどの発表の場を提供した。

草原の広場やクロスカントリーコースを利用したウォーキングイベントやオリエンテーリング大会、花の谷や湿性の森での自然観察会、大規模花壇での花の展示会などの場を提供した。

外部団体による大型イベント（MtFUJI100：3,000人、FUJI&SUN24：8,000人、トレイルランナーズカップ：500人）や合宿の受け入れも行った。

目標値を超える実績をあげ、公園のフィールドを利用した健康増進や、貴重な植栽を活かした余暇活動に貢献し、公園の周知や利用者増にもつながった。

D 地域との連携・協働

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

C（前項）の事業は、行政（市・警察・消防等）・地元企業・商店・高校・住民（愛好家・アーティスト等）の協力を得て、実施された。また、花の谷の山野草の保護活動、バラ園などの手入れや、WSやものづくり体験など日常的な催しの運営にも、地域のボランティア（団体等）の方々の継続的な参加を得ており、参加人数については、目標値をおおむね達成している。

また、県内外からの小中高等学校・幼稚園・保育園の行事利用誘致にも積極的に取り組み成果を上げている。

今後も学校以外の地域団体も含め、利用団体のニーズを丁寧にリサーチし、滞在時期・時間に合わせて楽しめる様々なプログラム等を考案し、こどもの国の活用の可能性を拡げることが期待する。

E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者のニーズに合った利用時間の設定については、利用者数の多いGW・お盆・秋の三連休の中日などに、臨機応変に対応した。

案内看板等は計画数を充たしている。アスレチックのリニューアル完成に伴う看板などの新設や、ホテルロジック看板などの改修を行い、360度ガイドビューの運用も開始した。

また、夏場に利用者数の多い水の国では、猛暑対策としての日よけ（9か所新設）やミストが喜ばれ、冷房付きの授乳室（コンテナ型）は多くの乳幼児連れの利用があった。

今後は、子育てファミリー層への支援サービスの充実が（利用者増のために）不可欠である。イベントと託児実施日が連動していないのは保育者確保の事情もあるかと思うが、子育て世帯が求める託児サービス実施方法の再考（日程や予約制等）が必要と思われる。

園内施設（8か所）でキャッシュレス対応を行っており、令和6年4月からは、クレジットカードのタッチ決済を導入した。

定期利用者アンケートは、計画通り実施した。利用者・利用団体・設置者とのヒアリングは積極的に取り組まれており評価できる。利用者満足の向上につながる取り組みに活かされることを期待する。

利用者評価の比較的低かったトイレの項目は、施設の老朽化が影響していると思われる。視察では、昨年より改善された印象をもった。トイレは、レジャー施設の利用満足度に繋がる大きな要素である。引き続き、洋式化・ウォシュレット設置を含め、トイレ環境の整備には、優先的に取り組まれない。

F 公園の魅力の広報

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

SNSの活用、マスコミへのプレス、ウェブメディア、LINE、Web広告による情報発信に積極的に取り組んだ。特に、SNSの活用については、スキの迷路の紹介動画を制作、園内で遊ぶ様子（パオ・BBQ・まきば等）をTikTokに広告出稿、リアルな園内の様子を積極的に発信した。また、2023年11月に運用を開始した公式LINEアカウントは、1年で2万人を超える登録者

数を獲得した。LINE によるイベント紹介や羊の名前募集、プレゼントクーポンなどは、来園への動機づけとして効果を発揮した。

目的別園内案内についても、HP 上で、園内おすすめコースを設定（「富士山絶景ポイント巡り、家族みんなでアクティブに楽しもう！草原スタートコース等」）し、紹介した。案内情報は、「来園を誘う情報」と「来園した方に分かりやすい園内の楽しみ方」に工夫されている。今後も、来園の決め手となる情報は何かをリサーチし、園内での楽しみ方の提案も充実させ、新規来場者増、リピーター増に威力を発揮する発信にしていきたい。

パンフレット類も、多彩な事業内容ゆえに情報の多さは否めないが、情報内容の整理と精査に努力されている。HP や SNS の充実の中で、紙媒体の強みの活かし方も検討いただければと考える。

インバウンド対応としては、英文パンフ・HP を作成、3 か国語の案内看板を設置した。

昨年度、効果測定を検討するとなっていた新聞広告は、実施されていない。

利用者の立場から求める「こどもの国の情報」について（参考）

例）＊当日、楽しめる園内案内（既に実施）・・・当日のスケジュールを決めるために必要

＊年間スケジュール、春・夏・秋・冬シーズン毎にまとめたイベント・WS 案内

（一部事業で実施）・・・親子で少し先の休日の計画を検討したいときに必要

＊園内で実際に見た花・野鳥の写真情報・・・実際に園内で花や鳥を見たい場合

地元のカメラ同好会や利用者の写真投稿を受けての HP・LINE でのリアルタイムに近い情報発信。

＊（今）来園すれば会える・遊べる、可愛い動物たちの写真

＊園内での富士山のビューポイントから見える富士山の写真収集と発信

協力者については同上。園内から見える富士山の写真の収集（場所と日時も表記）

は、HP での紹介やホールでの写真展示としても、公園の魅力アップに有効。

引き続き、こどもの国を楽しみ尽くせる方法を提案する情報発信に努めていただきたい。

G 収益向上への取組

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

アウトドア宿泊施設の利用件数は、6 月土日の降雨や、7 月の猛暑、8 月の南海トラフ地震臨時情報発表、台風 10 号の影響があったが、バーベキュー施設が目標件数を下回った他は、パオ・オートキャンプ・キャンプサイトは（中間）目標件数を達成した。パオ設置エリアでのバレルサウナ（テントサウナ）体験、宿泊者へのホテル観察会など、新たなサービスの創出や施設の洗浄・消毒による快適な利用の確保に努め、実績の回復に効果を上げている。

今後は、自然現象の影響やリスクも想定した施設運営が求められるのではないかと考える。この意味で、猛暑や雨天に対応する屋内のプログラムの充実にも引き続き、取り組まれない。

レストランのメニューは季節限定・地場産品を積極的に取り入れており、静岡県ご当地ランチが人気である。また、カレーの甘口・辛口・低アレルゲン、麺類の大盛対応も行った。

GW や夏休みなどの繁忙期には、待ち時間が少ないメニューを工夫した。井戸水（富士山伏流水）が飲めるのも特色である。さらなる活用とアピールを工夫されたい。

盛り付けやメニュー表示にも努力されている。素材へのこだわりが、利用者十分に伝わり値段にも納得し満足いただけるよう、料理の彩りや盛り付け、メニューの表現等に、フードコーディネーターなどの外部専門家のアドバイスを得ると、さらに効果が上がると考える。

売店で扱う品物については、マルシェなど園内イベントで好評だった品物（WS インストラクター作品・地元産品など）や園内で収穫された作物、オリジナル商品を、常時販売している。

猛暑対策として、ソフトクリームの販売時間への配慮や飲料・アイスの在庫にも留意した。

H 安全・安心で快適な施設の提供

〔9 段階評価〕

A⁺

A

A⁻

B⁺

B

B⁻

C⁺

C

C⁻

施設・設備ともに経年劣化が激しいため、日常点検・定期点検で異常箇所を早期に発見し、特に耐用年数が経過している施設・設備については、積極的に点検・補修することで、安全確保に努めている。ユニバーサルデザインについても、サイン・ベンチ等の修繕・新規設置も目標以上に実施された。樹木や花壇の管理についても利用者の評価が高い結果が出ている。

広い園内で、様々な事業を安全・安心に実施していくための、日常の点検・修繕・維持管理等に取り組まれていることは高く評価する。

今後も、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設・整備の長寿命化を図りつつ、公園緑地課と協議を行い、必要な措置を講じられたい。

5 小笠山総合運動公園

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

静岡県内の西部・袋井市にあり、広大な自然を有する敷地、雄大なスタジアム、様々な利用方法のあるアリーナをはじめとする多様な施設を有する小笠山総合運動公園は、県を代表する運動公園の一つである。したがって、県民のスポーツに関する要望だけでなく、文化活動や健康増進など多岐にわたるニーズに応えながら、より多くの県民に充実感を伴う利用を提供していく必要がある。

昨年度はアリーナの工事のため1～2月の供用ができない期間がありながら、年間の利用者数が従来の100万人（1,004,030人）にまで回復し、いわゆる「コロナ禍」を脱した感がある。今年度の利用者数も中間実績777,901人と、昨年度の中間実績711,541人を上回っており、アンケートによる利用者の総合満足度も昨年同様4.55（5点満点）であり、比較的高い水準を維持していることから、総じて多くの県民が快適に利用していると評価できる。今後も社会の変化に対応しながら、県民のQOL向上に貢献できる公園づくりが継続されることを願う。

今年度の本施設の様相を見ていくと、まず陸上競技、Jリーグ、ラグビーをはじめとして、多くの種目において国際レベルから高校生などのアマチュアレベル、パラスポーツなど多くの大会が開催されている。競技スポーツだけではなく、近隣の中学・高校の学校体育行事にエコパスタジアムが活用されており、幅広い利用者に支持されている。

また、スタジアムやアリーナを利用した大型イベントやコンサートをはじめとする文化イベントや広大な自然を活かした環境学習の機会も数多く確保されており、運動施設のみならず公園施設がバランスよく県民に利用されている。

公園の収益性に関しては、利用者数の充実とともに、いわゆる「ビッグイベント」を誘致できるかといった点に大きく影響される現実がある。2026年にはアジア競技大会のサッカー会場になることが決まっているが、過去にラグビーW杯、有名アーティストのコンサートなどを開催した経験を活かし、継続的に大きなイベントの誘致が望まれる。

今年度も気候環境（酷暑、豪雨、台風等）の影響により、やむなく中止せざるを得ない大会やイベントが散見された。この傾向は今後も続くことが予想されるため適切な対応が求められる。関連して、安全面については「安全対策ガイド」を作成する等、十分な危機管理意識がみられる。緊急時に周辺住民へのサポートが万全になるように備えてもらいたい。

● 改善事項

次年度以降の改善事項として以下の5点を提案する。

- ① 比較的用户者の少ない時間帯における施設の活用法の再考（学校関係者への周知等）
- ② Instagramやその他のプラットフォームを活用したSNSによる広報の強化
- ③ 物価の高騰に伴う施設利用料や指定管理料補助の再検討
- ④ 施設の老朽化への対応及び気候変動・災害への対策
- ⑤ 継続した施設内のトイレの改善（利用者アンケートによる意見から）

● 機能別の評価

A 県の頂点となる大会の開催（国際大会、全国大会、県大会等）

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

5月に行われた「静岡国際陸上」、パリオリンピック日本代表選考レースとなった男女1万m競走等、陸上競技では例年同様の大会が実施された。サッカーではJ1リーグ戦2試合（5月、8月）が行われ、ラグビーではリーグ・ワンの試合はなかったものの関西大学ラグビーAリーグ2試合が開催されている。高校年代での競技を見ても、男女サッカー、ラグビー、バスケットボール、アーチェリーの高校総体決勝が公園内の施設で行われている。他にも全国高校ラグビー選手権、全国高校サッカー選手権、全国高校駅伝の上位戦が行われており、県内トップレベルの高校生アスリートの主要な競技会場となっている。また、将来的な発展が予想される女子ラグビーでは、「ウイメンズセブン」の入れ替え戦や日本対USAの代表戦が開催された。次年度以降も今年度同様に、トップレベルのスポーツ大会が多く開催されることを期待する。

今後の課題として考えられるのは8月末に予定されていたラグビー「同志社大 vs 慶応大」の定期戦が中止となったように、気候（豪雨、台風、暑熱等）や災害の影響への対策であろう。昨年度、前日の大雨の影響により中止を余儀なくされたラグビー「帝京大 vs 明治大」の一戦を今年度6月に開催したことは、落胆した県内ラグビーファンへの配慮ある対応であり、評価できる。やむを得ず開催できなかった大会や試合に関しては、今後も同様の対応を期待したい。

B 地域利用・多目的利用の推進

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

健康エクササイズ等の自主事業の利用者数は、今年度、中間目標1,650人に対して利用者数が1,885人となっており、例年通り周辺住民の健康づくりの場として活用されていることが推察される。一方で、昨年度、利用者数が増加していたラグビースクールが今年度は目標数を下回っているため、積極的なPRが必要かと思われる。

文化イベント等による利用という視点から、エコパキッチンカーフェス2024など県民参加型大型自主事業の利用者数は中間目標20,000人に対し、中間実績21,360人であり、幅広い利用者がいることが推察される。

会議室等室内の利用者数も想定を上回っており（中間目標数4,500人、中間利用者数5,165人）、運動施設のみならず公園施設がバランスよく県民に利用されている。

施設の広大な自然を活かした環境学習等の利用者数が目標に届いていないが、台風等の影響により、やむを得ない。次年度以降も利用者の安全を確保しながら、自然へのふれあいの機会を多く提供してもらいたい。

C 地域・企業との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

平日の午前中など利用者が比較的少ない時間を活用し、袋井市や浜松市の複数の中学・高校が「校内体育大会」「体育祭」等の体育行事をエコパスタジアムで行っている。このような利用法は、運動公園においては平日利用の有効な対策となる。同時に、学校教育関係者にとって

も、準備の負担が少ない、(保護者等が) 観覧しやすい、生徒らがトップアスリートと同じ環境で行事に参加でき高揚感を味わえる等、多彩なメリットがある。今後も周辺地域の教育関係者へ広く周知して開催数を増加させていくことが望まれる。

加えて、公園周辺の公立中学校では、少子化による部活動の地域移行が加速している。生徒の課外活動の場として、行政機関との連携を行い、できる限りの協力を要請したい。

公園内にある駐車場「P9」では地元企業、特に自動車関連企業の実車テスト走行の場となっており、タイヤテストや小型モビリティの走行テストなど製品開発にも貢献している。広大な敷地を有する本施設の特性を生かした地元企業への貢献であり、今後も地元企業の期待に対応してもらいたい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9 段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者へのアンケート結果の活用や接客・スキルアップ講習会へのスタッフの参加など、ニーズの把握や接客サービスの向上に取り組んでいる姿勢がみられる。利用者からのアンケート結果は満足度の維持・向上に大変効果的であり、今後も継続してほしい点である。

近隣のこども園・小学校・中学校や放課後等デイサービス、子育てセンター、子供会と多様な団体から「スタジアム見学」の依頼があり、昨年度は年間 18 回の見学ツアーを、今年度は 11 月末までに 26 回を実施している。今後も近隣住民の要望等のリサーチを踏まえたサービスの質的向上を期待している。

また、駐車場のトイレの改修工事などの取り組みがある一方で、依然として施設内のトイレを清潔に保つことを要望する利用者の意見（アンケート）も散見されるため、継続的な改善をお願いする。

E 公園の魅力の広報

〔9 段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公式 HP のアクセス数を見てみると、昨年度は約 267 万回に対し、今年度は約 289 万回と約 22 万回の増加がみられる。これはアクセス数の 80%がスマートフォンであるという分析結果から公式 HP を 10 月にリニューアルし、スマホ版メニューの刷新に注力した効果である。

上半期の比較であるが、TV の CM は、昨年度の 156 本から、今年度は夏に予定していた新規自主事業を断念した影響で 84 本と減少してしまった。一方で、従来の広報活動である新聞広告「エコパカレンダー」や紙媒体での「しぜん通信」は、支障なく継続できている。

昨年度から取り組みを本格化した「Instagram」においては、昨年度の更新回数が 84 回に対し、今年度は 114 回に増加している。次年度以降、さらなる増加をお願いしたい。今後は情報の発信・享受に関して、SNS の影響は強化されていくため、その他のプラットフォームの活用及び活性化も検討する必要がある。

F 収益向上への取組

〔9 段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園の収益性に関しては、スポーツ・文化の両面において、いわゆる「ビッグイベント」を誘致できるかといった点に大きく影響される。その点から考えた場合、昨年度の「B' z スタジアムコンサート」のような大型イベントに該当するような開催イベントは見られなかった。近年、コンサート実施側から施設へのアプローチが早まっている傾向にあるため、有利な条件で誘致できるような準備が求められる。

今年度の中間実績では大型コンサート等のイベントでは中間目標 110,000 人に対し、中間実績 271,020 人、プロスポーツイベントでは中間目標 38,000 人に対し、中間実績 55,686 人と順調な利用者数の確保が行われている点は一定の評価ができる。アマチュア選手の大会や地域のボランティアが主催するイベントなどへの配慮も欠かすことなく、バランスを取りながらの誘致・開催をお願いしたい。

他には、県の条例等との関連性も考慮する必要があるが、高齢者のトレーニングジム利用料など施設利用料金の見直しも今後は検討する必要がある。今年度及び来年度は人件費・光熱水費、各種の資材の高騰のためすでに指定管理料の補助を受けているが、物価の高騰は不可避の状況にあるためエネルギーコストのさらなるサポートを県に要請したい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9 段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園開園 23 年目であり、設備の老朽化への対応や長寿命化に取り組みながら施設管理を行わなければならない状況にある。これらの修理や修繕、取り換えなどは早急に進める必要がある。一方で、利用者の快適な利用環境を維持しながら改善していくための確かな計画が立案されなければならない。県が予算化する部分との見極めなどにも相応に時間を要するが、迅速かつ的確な対応を求めたい。

今年度は「南海トラフ地震臨時情報」の発表による対応を求められた経緯もあり、「安全対策ガイド」をアリーナ版、スタジアム版に分けて作成している。このガイドを早急にまとめ、イベント開催時の緊急対応に役立ててほしい。

広大な敷地ゆえ、人の目が行き届きにくい区域では、緊急車両の到着に時間がかかることも予想されるため、公園内の AED 設置等の安全対策に継続的に留意してもらいたい。

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者数は、中間目標の70,000人に対して、実績は56,827人と、7～9月の酷暑の影響で大きく落ち込んだものの、それ以外の月は順調に推移している。地球温暖化の影響で今後もこの状況は続くと思われる。芝生広場は、日差しを遮るものがなくやむを得ないと思うが、やすらぎの庭・香りの庭・ビオトープ池などで涼しさを演出し少しでも利用者を増やす試みを期待したい。

公園の管理面では、毎年のことだが芝生や樹木は行き届いた管理がなされていると感じた。令和6年度は「きれい！快適！感動！」をキャッチフレーズに「快適空間」の創造とサービスの提供に力を入れている。緑地維持管理作業を外部委託から内製化に切り替え合理化も進めている。芝草管理技術者の資格取得や芝刈り機の操作技術の向上など作業能力の研鑽にも努めており、綿密な計画のもと芝生・樹木の管理を実施している。その成果もあり、アンケート結果の芝生公園の満足度は4.0から4.5に大幅に向上しており評価に値する。また、前年度の指摘事項を中心に令和6年度の重点事項として10項目の事項に積極的に取り組んでおり、指定管理者の改善に対する意識の高さがうかがえる。

大型の音楽イベント「頂」は、今年度が最後の開催ということで収入面での影響は大きいと思われる。年間の利用者数もその分減少すると思うが、あまり気にする必要はないかと思う。むしろ特別なイベントで利用者数を伸ばすということではなく、公園の本来の目的に立ち回りイベントの有無に関係なく日常生活の一部として訪れる地元の常連客を増やしていくことが重要だと考える。

● 改善事項

昨年度は改善事項として「ビオトープ池の有効活用」と「利用者の震災に対する不安の払しょく」の2点を挙げさせていただいた。

「ビオトープ池の有効活用」については、池周辺の雑草除去や伐採、案内板の設置、観察ポイントごとのゾーニングによる整備などにより対応が図られており、このエリアの魅力が利用者に伝わりやすくなったと感じる。野鳥の種類・特性・観察ポイントなどの情報提供を案内板やチラシ、SNSで行い、ビオトープでの野鳥観察を公園の目玉の一つとしてアピールし新たなファン層を獲得してほしい。

「利用者の震災に対する不安の払しょく」については、避難場所である命山の誘導看板設置や地震時の園内アナウンスの定文化が行われていたが、初めての利用者には命山の存在が十分に周知されているかは疑問である。昨年は、1月1日に発生した能登半島地震に続き、8月8日には南海トラフ地震臨時情報が発表され地震に対する警戒心は一層高まっている。この課題については今後も継続して対応することが望まれる。

今年度は、改善事項として「親子連れが楽しめる環境整備」と「人と飼い犬の共存」の2点をあげる。

詳細は後述するが、アンケート調査の結果から子供を遊ばせることができる遊具の充実とペット連れの飼い主のマナー向上は、利用者に気持ちよく過ごしていただくための重要な課題と考える。

● 機能別の評価

A 花や緑に親しむ機会の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

以前から利用者アンケートで「樹木・花に名前を付けてほしい」との要望が多かったが、この点については大幅な改善が行われた。入口からエリアごとに順次、樹木への名札付けを開始した。QRコードなどを付け SNS に連動してより詳しい解説が見られれば楽しみ方も増えてくる。花や緑に親しむ機会が増えることで、公園が学びの場としての機能を持つことが期待される。

また、たねダンゴ大作戦、花壇コンクール、チューリップの植栽、パンジー・ビオラの種まき、コンテナガーデンなど1年を通して花と触れ合う機会が多く設けられていることは評価したい。ひまわりの植栽も客足の落ちる夏場の目玉として今後に期待したい。

整備が進んでいるビオトープ池周辺は大きなポテンシャルを感じるので、ゆっくりと野鳥観察ができる雰囲気づくりと野鳥の種類や行動特性など野鳥観察の初心者がわかりやすい情報提供を行い、利用者に野鳥に興味を持ってもらうきっかけとなるような仕掛けをお願いしたい。

アサギマダラはその存在が浸透しつつあるが、より一層のPRを行い吉田公園のシンボルとして定着させてほしい。

B 地域住民の利用促進

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園の利用促進に関しては、ある程度広域な地域をターゲットとしたイベント中心の誘客と近隣の地域住民をターゲットとした日常的な賑わいづくりの二つの側面から戦略を考えていただきたい。目標設定もイベント時の利用者数とイベントのない平時（日常）の利用者数を分けて評価したほうがよいと思う。

イベントに関しては、チューリップまつり、ハッピーハロウィン、お月見コンサートなど魅力のある企画が多いので出来るだけ広域にPRし、吉田公園を知ってもらうきっかけとしてほしい。

近隣住民に関しては、現在の利用状況を踏まえるとウォーキングや犬の散歩、子供たちの遊び場などの用途がメインと感じる。これらのターゲットは、それぞれ求めるものが異なるためターゲットごとのニーズをアンケート調査などにより分析し対応していく必要がある。

特に注意すべき点は、ペット連れとそれ以外の利用者の共存についてだと感じる。犬の糞や長い犬用リードで走り回る犬を不快に感じる利用者もいるようで、飼い主へのマナーの呼びかけやドックランなどある程度のゾーニングが必要になるかもしれない。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

ボランティアの参加は、上半期245人と目標の200人を上回っているが、昨年の上半期実績（319人）と比較すると70人ほど減っている。登録者も36人と毎年2名程度減少している。

「新しいスタイルの県民参加の公園運営」という当公園の設置目的からするとボランティアの参加減少は公園運営の重大な課題である。

昨年も報告書に記載したが、SNSでの活動内容や募集のPR、若い人や親子で参加しやすいオープンな雰囲気づくりなどボランティアの登録者数を増やす試みを期待したい。

遠足等の利用は、幼稚園・中学校・福祉施設・一般団体と幅広い団体が利用している。特別支援学校の作業学習や地元中学校の職業体験学習なども積極的に行われ、地域との連携はよく図られている。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

アンケート調査の結果から読み取れる利用者ニーズは、「子供が遊べる遊具の充実」と「喫茶の充実」が挙げられていた。

一般的に他の公園の平日の利用者は未就学児を連れた母親が多い。子供を遊具で遊ばせて、母親同士が会話を楽しむ交流の場として公園は利用されている。吉田公園のちびっこ広場の遊具は、メインのすべり台も老朽化が進み一部使用ができずロープが張られている。遊具の数も少なく、特に幼児が遊べる遊具がないのは公園として致命的である。アンケートでも幼児用を中心に遊具の充実を望む声が圧倒的に多い。老朽化した遊具は危険でもあるので県としてぜひ、遊具の増設・リニューアルのための予算をお願いしたい。

水遊び場が使われていない状態は、いまだ続いており見た目も不衛生で公園の雰囲気を損なっている。衛生上の問題で水遊び場として使うのが無理なようであれば整備しなおして休憩スペースとして活用したり、花壇化するなど何か別の用途を考えたほうがよい。

喫茶に関しては、7月に公園カフェとして新たに「プルメリア」がオープンした。土・日・祝日のみの営業だが採算性を考えるとやむを得ない。低料金で気軽に楽しめるメニューで好評のようである。目立たない場所にあるので利用者への周知を徹底したい。テークアウトも開始し利便性は向上しているが、客席が少ないのでオープンカフェなども検討されたい。

E 公園の魅力の広報

[9段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

テレビ・新聞等の掲載件数はやや少なく感じるが、Instagramのフォロワー数は増加している。SNSの活用は広報の手段としては主流となっているので引き続き力を入れてほしい。フォロワー数を増やすことは重要だが、来園していただくことが最終の目的なのでアクセスデータの分析で、こちらの狙ってるターゲット層に情報が的確に届いているのかを検証する必要がある。公園に対する需要にマッチしたハッシュタグのつけ方の工夫やフォロワーのコメントに対するコメント返しにも気を配りたい。また、投稿の回数が上半期に比較してやや少なくなっている。Instagramは、こまめに投稿しないと観られなくなることが多いので週に2回程度は投稿したい。投稿内容は、公園のイベントや花の開花の情報、アサギマダラ、野鳥の様子など充実しており公園の魅力を十分に伝える内容となっているので、できるだけ多くの人に見てもらい誘客につなげていきたい。

SNSを利用しない高齢者等も平日の誘客の重要なターゲットなので、チラシ・ポスター等の紙ベースでのPRも併用してほしい。

F 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

上半期には「めだかフェス」「部品交換会」と新規イベント2件の誘致に成功し収益向上が図られた。ただ、大型音楽フェス「頂」の開催が今年度で最後となるようで施設使用料の減収が懸念される。大型ではなくても吉田公園の自然環境をいかした吉田公園ならではのイベントが数多く誘致されることを期待したい。

自動販売機は、大きな収入源であるとともにカフェを営業していない平日の飲食提供を補う重要なアイテムでもあるので、今後も充実することが望まれる。

人件費や物価の上昇はさらに加速しつつあり大幅なコスト増となっている。公園設置者の県におかれては、指定管理料の見直しについて十分な配慮を願いたい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

やすらぎの庭やビオトープ周辺の伐採や剪定により、見通しもよくなり日差しも取り込まれ近寄り難い雰囲気も解消され安心感も増している。

ハチやクモなどの害虫駆除も行い、子供たちが安心して遊べる環境づくりも進めている。

コイヘルペスの影響で池のコイが全滅状態となったが、新たに導入するようである。衛生管理には十分配慮をお願いしたい。

昨年8月に南海トラフ地震臨時情報が発表され災害に対する危機感はさらに増している。避難看板の設置により、利用者に対し避難場所の周知を図っているが、津波に対する命山の有効性など利用者が安心できる情報提供に努められたい。

7 浜名湖ガーデンパーク

● 評価の総括

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は10年ぶりの「浜名湖花博2024（4/6～6/2）」（以下、花博という。）開催の年であり、花博後も、約1ヶ月間、リニューアルオープンに向けた復旧工事のための休園措置を取るなど（6/3～30）、例年とは異なる管理運営が行われた。4月はネモフィラが見頃を迎えたが、もう一方の花博会場である「はままつフラワーパーク」のチューリップに人が流れたため、利用者数は昨年同期5.7%減の173,737人となった。5月は百華園に新植したバラが見頃を迎えたことなどにより、利用者数は302,211人と大幅に挽回し、昨年同期を大きく上回った。再開後の7～9月にかけては、酷暑に伴う熱中症警戒アラートの度重なる発出、大雨、8月の南海トラフ地震臨時情報発出による外出控えの動きがあったことに加え、例年花ひろばを彩るヒマワリの植栽が花博開催に伴い間に合わなかったため中止となり、利用者数は昨年同期32.5%減の211,230人となった。中間実績では利用者数719,186人と、目標とした公園利用者数855,000人を下回る結果となり、アンケート結果による利用者満足度についても、4.24と昨年度の4.39を下回る結果となった。酷暑や地震、園内復旧作業などやむを得ない状況ではあったが、花博の開催の年に目標に達しなかったことは残念に思う。

一方、昨年度の改善事項として挙げられていたボランティア募集については、花博の開催を契機に要員数増強、多様な年代の人材獲得を実現した。加えて、スキル・ホスピタリティ・モチベーションの向上による活動活性化を図るため、研修旅行や各種講習会などにも積極的に取り組んでおり、その活発な活動実績は特筆に値する。利用者の半数以上が来園目的として挙げる散歩・散策、花や緑の鑑賞についても継続して高い評価を得ており、ボランティア活動の活性化と省力化、マルチタスクの推進などの努力によって広大な敷地に対し行き届いた管理を実現していることに敬意を表したい。設置目的に掲げている「幅広い世代に愛される公園」のさらなる実現に向けて、花博資産を継承するとともに、新たな魅力づくりにも引き続き挑戦するなど、さらなる魅力向上に励んでいただきたい。

● 改善事項

・暑さ対策

近年の気候変動の深刻化を踏まえると、今後も猛暑や早期の気温上昇の可能性が考えられることから、室内の有効活用、開場時間の前倒し・延長、プログラムの実施時期や時間帯の見直し、日傘の貸し出しなどの暑さ対策について、既存・新規問わず引き続き検討・対応いただきたい。

・飲食強化

利用者アンケートにおいて他項目と比べて大きく数値を落としている「飲食」について、ターゲットに合わせた食メニューの継続開発を検討いただきたい。利用者の約半数が浜松市内在住であることから、地元食からさらに踏み込んだ、ガーデンパークならではのメニューが期待される。情報発信の観点からも、ホームページ上にメニューの写真や価格を掲載するなどの工夫を検討いただきたい。

・収益強化

さらなる収益向上に向けて、「マルシェ・ド・浜名湖」や「はなのわマルシェ」における新たな出店者募集などによるイベントの魅力向上、有料プログラム体系の見直し、駐車場や花の美術館の有料化（受益者負担）などについて検討いただきたい。

● 機能別の評価

A 憩いの場として、多彩な花・緑との出会いの場を提供

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

景観の創出の観点からは、今年度は花博の開催に伴い、花ひろばのヒマワリ植栽の中止、上期の植栽地への地上絵創出の中止等、例年と異なる対応が求められたが、花の美術館、ふれあい花壇づくりについては目標を達成、適正な管理が行われた。利用者アンケートでも、花緑の管理については高い満足度を得ていることから、百花園・花木園も含め、引き続き、魅力ある庭園づくりを続けてほしい。

プログラムの提供の観点からは、植物の展示会や花修景と連動したイベントについては目標を達成した一方、植物に関連した自主イベントや植物ツアー等については目標を下回った。酷暑の影響による夏の利用者減が要因の一つと考えられるが、実施する時期や時間帯を見直すなど、あらかじめ酷暑を想定した対応を検討いただきたい。利用者アンケートでも要望が多く寄せられている樹名板・花名板の設置については、デジタル化や既存の植物図鑑アプリ（Green Snap、PictureThis、等）の活用促進なども含め、効率的・効果的な対応を検討いただきたい。

B 多様な体験の場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、発表会、コンサート、式典といった地域イベント数については目標を上回った。発表会等の人気の場所として定着しているため、今後も多くの利用を期待したい。一方、健康増進プログラムについては、熱中症警戒アラートの発令による中止の影響により実施回数は目標を下回った。近年の気候変動の深刻化をふまえると、夏から秋にかけての健康プログラムについては、実施する時期や時間帯、場所を見直すなど、あらかじめ酷暑を想定した対応を検討いただきたい。

新規持ち込みイベントの誘致では、「ヘチマ食べ比べ」、「ADAM FEST 等」を開催するなど、積極的に新規開拓に取り組んでいることを評価する。

緑豊かな公園の環境を生かした自然学習プログラムの提供については天体観測会、バードウォッチング等に積極的に取り組まれており、継続実施を期待したい。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、花・緑および施設運営のボランティア活動の延べ人数は昨年度に引き続き今年度も目標を上回った。また、花博の開催を契機に新規人材を獲得するとともに、高校生の加入もありボランティアの平均年齢が大幅に下がる結果となった。これによって、長年の懸案で

あったボランティア人材の若返りと要員数増強を実現した。加えて、スキル・ホスピタリティ・モチベーションの向上による活動活性化を図るため、研修旅行や各種講習会、園内ガイドに挑戦する機会の提供などに継続的に取り組んでいることも高く評価したい。今後も、学生ボランティアや家族ボランティアなど若い世代の人材獲得も継続的に図るなど、全世代の人々が公園運営に参画できる機会の提供に努めることを期待したい。

また、地元の行政・教育機関・自治会・企業、周辺施設及びNPO等との連携・協働の観点からは、特に浜名湖地域情報コーナー利用団体数の実績が109団体と、目標の45団体を大きく上回っており、地域連携が進められている。花博を契機として、地域における浜名湖ガーデンパークの存在感が見直されていると考えられ、今後も地域持ち込みイベントや学校教育活動での連携に期待したい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

アンケートの「総合満足度」については、4.24（夏：4.27、秋：4.21）であり、昨年度の4.39を下回る結果となった。多くの項目において評価が下がったが、「遊具・展望塔などの施設」、「休憩スペース」については昨年度を上回る評価となった。花博に向け、園内の休憩スペースを塗装し直すなど、全体的に整備したことが要因の一つと考えられる。

高評価の項目は、例年同様、「自然環境」、「花緑の管理」であり、利用者の半数以上が来園目的として挙げる「散歩・散策」、「花や緑の鑑賞」へのニーズには引き続き対応できていると推察される。自然環境や花緑の管理は、本公園の総合満足度を左右する要素であると考えられることから、この部分を高い評価で維持できていることは評価したい。

一方、低評価の項目は「飲食」であり、例年同様、他項目と比べて大きく数値を落としている。利用者からも飲食施設の充実を望む声が多く挙げられていることから、食の充実を図るため、キッチンカー1台の新規導入、キッチンカーと連携したオリジナルメニュー（三ヶ日みかんわらび餅ソフト、コスモスソフト）の開発・販売等、要望改善に努めている。食は、観光レクリエーション市場において重要なコンテンツの一つであることから、ターゲットに合わせたガーデンパークならではの食メニューの継続開発を期待したい。

また、昨年度に続き、暑さ対策に対するニーズも多く挙げられた。植栽による日陰の設置、屋内で楽しめるコンテンツの充実、開園時間の前倒し・延長などについて、継続した対応をお願いしたい。

E 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

花情報に加え、イベント、飲食、ボランティア活動など幅広い公園の魅力の発信に意欲的に取り組み、中間実績では、SNS（Instagram、Facebook、X（旧Twitter））の運用・更新については目標の60回から734回、YouTube動画の投稿については目標の5回から20回と目標を大きく上回った。一方、ホームページについては、花博の開催期間が含まれる4～6月のユニークユーザー数は前年同期を大幅に上回ったのに対し、7～9月は前年同期を下回った。シニアから子供まで幅広い年齢層の利用者を想定し、各種媒体の使い分けや連動を意識的に行うことで、効率的かつ充実した情報発信が期待される。飲食については利用者アンケートで低評価となっているが、情報発信の観点からも、ホームページ上にメニューの写真や価格を掲載するなどの工夫を検討してほしい。

利用者の主な来園目的の一つである開花情報については、見頃を迎える園内の植物を紹介

した「花みごろ」を発行するとともにホームページでも同情報を更新し、利用者ニーズに応えた広報となっている。

F 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、地元食・物産店舗の出店、展望塔の利用促進ともに目標を大幅に上回った。一方、夏期の酷暑や大雨、南海トラフ地震臨時情報の発出による出控え等の影響を受け、屋外での自主イベントである健康増進プログラムの参加者数、売上が減少した。このような状況を受けて、屋内で行う夏休み工作教室を増やしたり、卓球台を有料化するなどの工夫がみられた。

今後は、さらなる収益向上に向けて、「マルシェ・ド・浜名湖」や「はなのわマルシェ」における新たな出店者募集などによるイベントの魅力向上、酷暑にも対応した有料プログラム体系の見直し、駐車場や花の美術館の有料化（受益者負担）などについて検討いただきたい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、重大事故『0』の継続、日常的な点検の実施等、おおむね目標通りに行われており、安心安全に配慮した施設サービスが提供されていると評価できる。花博に向けた全体的な整備、維持補修を行ったことから、利用者アンケートにおいても、遊具・展望塔などの施設、休憩スペースは昨年度を上回る満足度を得た。ユニバーサルデザインについても、利用者アンケートにおいて高評価であり、車椅子の貸し出しの積極的な利用案内などユニバーサルデザイン施設を生かした利用促進を継続して期待したい。

今後も、気候変動に伴う猛暑やゲリラ豪雨の増加、30年以内発生確率が80%程度に引き上げられた南海トラフ地震などへの対応に向け、危機管理行動の定期的な見直しや、計画的な防災・救急訓練の実施、救命講習会への参加に確実に取り組まれない。